

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 11 日現在

機関番号：32688
 研究種目：基盤研究（B）海外
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22401020
 研究課題名（和文）12－13世紀の東方ビザンティン美術と西欧中世美術の相互の影響関係の研究
 研究課題名（英文）A Study of the Cross-cultural Influences Between Byzantine Art and Western Medieval Art in the 12th and 13th Centuries
 研究代表者
 永澤 峻 (NAGASAWA TAKASHI)
 和光大学・表現学部総合文化学科・教授
 研究者番号：20130859

研究成果の概要（和文）：

12－13世紀における東方ビザンティン美術と西欧中世美術との間の相互の影響関係のアクチュアルな研究を進めるため、写本挿絵、壁画、浮き彫り彫刻、象牙彫刻などの分野に関する重要な作例が数多く残る東・西ヨーロッパの諸都市（パリ、ロンドン、シエナ、パルマ、フィデントツァ、フィレンツェ、アテネなど）への重点的な現地調査を行い、図像上ならびに様式上の問題について、幾つかの新しい知見と発見を得ることができた。

研究成果の概要（英文）：

To examine the cross-cultural influences between Byzantine art and Western medieval art, our team conducted intensive field research in Paris, London, Siena, Parma, Fidenza, Florence, and Athens. Through painstaking comparative work, we were able to identify new iconographical and stylistic characteristics in illuminated manuscripts, frescos, bas-reliefs, and ivory sculptures.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成22年度	2,500,000	750,000	3,250,000
23年度	2,300,000	690,000	2,990,000
24年度	2,200,000	660,000	2,860,000
年度			
年度			
総計	7,000,000	2,100,000	9,100,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学、美術史

キーワード：美術史、美宅、西洋史、東洋史、考古学

1. 研究開始当初の背景

(1) ビザンティン美術と西欧中世美術の相互関係の問題に関しては、二十世紀末の O. デームスの『ビザンティン美術と西欧』(1970年)

から H. ベルティングの『イメージと信仰』(1994年)に至る総合的な研究のもとにおいて、重要な見直しが急速に進められてきており、またわが国においても、故・辻佐保子氏の『ビザンティン美術の表象世界』(1993年)

において、本課題と係わる諸論考を発表してきていたこと。

(2) 東・西ヨーロッパの中世美術に関して、個別的なアプローチからの経験を有する本研究メンバーが、ヨーロッパの諸都市(パリ、ロンドン、シエナ、パルマ、フィレンツェ、アテネなど)に残る個々の作例の綿密な調査・研究と再検討を行うための実績を積んできていたこと。

2. 研究の目的

(1) 特に近年において、造形表現上の重要な変化が生じていたことが明らかになってきた12-13世紀のビザンティン美術と西欧中世美術との相互の関連性を、各メンバーが熟知し、代表的な作例が残る諸都市(パリ、ロンドン、シエナ、パルマ、フィデツァ、フィレンツェ、アテネなど)への現地調査を実施して、この時期の造形作品を総合的に再検討し、新たな展望を開くこと。

(2) 従来の西洋美術史研究において、個別的に論じられがちであったビザンティン美術と西欧中世美術とを相互の影響や関連性のもとで考察するため、各メンバーが研究を積み重ねてきた分野の作例(挿絵写本、壁画、浮彫彫刻、象牙彫刻など)が数多く残っているヨーロッパの諸都市(パリ、ロンドン、シエナ、パルマ、フィデツァ、フィレンツェ、アテネなど)への現地調査を実施し、それらの作例の持つ図像や様式の特徴を解明すること。

3. 研究の方法

(1) 研究メンバーは「ビザンティン壁画・モザイク・挿絵写本」とともに「西欧ロマネスク・ゴシック壁画・彫刻」を再検討するために、以下の2つのグループに分かれ、それぞれのグループに応じたヨーロッパの現地調査と資料収集を行うとともに、それぞれのグループの立てた計画のもとで研究を進めること。

① 「ビザンティン壁画・モザイク・挿絵写本」の調査・再検討グループ

- ・永澤 峻
- ・益田朋幸
- ・瀧口美香

② 「西欧ロマネスク・ゴシック壁画・彫刻」の調査・際検討グループ

- ・児嶋由枝

・小野迪孝

(2) ビザンティン美術と西欧中世美術の双方の研究史の徹底した把握に努めてきている研究代表者(永澤 峻)が、ビザンティン美術と西欧中世美術との相互の影響や関連性に関する基礎的資料と最新の研究データを提示する。これらの資料と研究データに即しながら、各作例の調査を進めてゆく2つのグループと各メンバーとが問題点の所在を見直して、全体での討議と再検討へと歩を進めてゆくこと。

4. 研究成果

(1) 欧米の研究者たちによつて、ビザンティン美術と西欧中世美術の影響や関連性が指摘されてきている幾つかの現存作例に関して、それぞれのメンバーが現地調査(パリ、ロンドン、シエナ、パルマ、フィデツァ、フィレンツェ、アテネなど)を通じて実見し得た精密な観察に基づき、基礎的データと新たな資料を収集することができたこと。

(2) ビザンティン美術と西欧中世美術の影響や関連性が指摘されてきている、幾つかの現存作例の図像や様式の問題に関して、幾つかの新たな知見や発見を日本語論文(永澤 峻、益田朋幸、小野迪孝、児嶋由枝)、欧文論文(児嶋由枝、瀧口美香)、著書(益田朋幸、瀧口美香)、学会発表(児嶋由枝、永澤 峻)を通じて、提出したこと。

(2) ビザンティン美術に係わるグループでは、論文、学会発表、著書を通して、ビザンティン美術史と西欧中世美術史のうえで重要な詩篇挿絵写本に関する基礎データとともに新たな視点(小ルネサンス動向)を提示する(永澤 峻)とともに、幾つかの聖堂壁画の図像について、西欧への図像の伝播を確認する重要な手がかりを見出すこと(益田朋幸、瀧口美香)ができたこと。

(3) 西欧中世美術に係わるグループでは、論文、学会発表を通して、発見以来大きな反響と議論を呼んでいるシエナ大聖堂壁画連作に関する画像プログラムの綿密な基礎データを提示する(小野迪孝)ことができ、また北イタリアのロマネスク聖堂扉口の「アダムとエヴァ像」の特異な身振り動作の着想源に即した新しいアプローチの可能性を提起すること(児嶋由枝)ができたこと。

(4) ビザンティン美術と西欧中世美術の両グループの再検討と議論を通じて、相互の影響や関連性を考察・研究してゆくに際しての

大きな枠組みの再検討の必要性がしばしば指摘されてきていた。

この問題に関しては、以下の視点から、紀要論文、論文集、著書というかたちの諸論考を提出することができた。

- ① イコンとナラティブという視点からビザンティン聖堂の画像プログラムの考察を進めてゆく諸論考(益田朋幸)。
- ② ビザンティン美術と西欧中世美術の双方の中世美術の造形動向に絶えず常数のように認められる小ルネサンス(ルノヴァティオ)動向の実質的な意義と内容という視点から見直すという諸論考(永澤峻)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 15 件)

- ① 小野迪孝、シエナ大聖堂下堂壁画連作におけるキリスト幼児伝および公生涯場面に関する考察、査読有、東海大学教養学部紀要、第 42 輯、2013、79-121
- ② 永澤 峻、『パリ詩篇』中のダヴィデ伝挿絵画像サイクルに関する覚書、和光大学表現学部紀要、査読有、13 号、2013、71-92。
- ③ 永澤 峻、もう一つのルネサンスのためニ —『パリ詩篇』挿絵写本の再検討に向けての覚書、和光大学表現学部紀要、査読有、12 号、2012、106-125
- ④ 益田朋幸、ビザンティン聖堂のイコンとナラティブ、査読有、『ヨーロッパ中世の時間意識』、2012、311-337
- ⑤ 児嶋由枝 (Yoshie Kojima)、Fidenza、The Glove Encyclopaedia of Medieval Art & Architecture、査読有、Vol. 2、2012、. 52. グローヴ中世美術・建築百科事典中の「フィデンツァ」の項目。

⑥ 児嶋由枝 (Yoshie Kojima)、iconografia per/Sacrum Imperium/ Relievi Nella faccia de Duomo di San Domino, Conoscio un ottimo storico dell' arte, Per Enrico Castellnuove, Scritti di allievi e amici pizani, 査読有、2012、77-82。
エンリコ・カステルヌオーヴォ教授へ捧げられた特別記念号の論文

⑦ 永澤 峻、もう一つのルネサンスのために、和光大学表現学部紀要、査読有、11 号、139-162。

⑧ 益田朋幸、『キリストと十二使徒』画像の説話的要素、早稲田大学大学院文学研究科紀要、査読無、58-3 号、2011、35-50。

⑨ 小野迪孝、ロマネスク期のイタリアに見る光輪部を突出させた縦型矩形の板絵形式をめぐって、東海大学教養部紀要、査読有、第 42 輯、2011、173-194。

⑩ 瀧口美香 (Mika Takiguchi)、Some Greek Gospel Manuscripts in the British Library; Examples of the Byzantine Book as Holy Receptacle and Bearer of Hidden Meaning, Electric British Library Journal, 2011, <http://www.bl.uk/ebli/2011article13.html>
ロンドン、大英図書館刊行の電子ジャーナルの寄稿論文

[学会発表] (計 2 件)

- ① 永澤 峻、ビザンティン美術史におけるマケドニア朝ルネサンスの位置づけ、第 12 回新約画像研究会(招待講演)、2012. 12. 23. 立教大学
- ② 児嶋由枝、北イタリア・ロマネスク聖堂扉口の「アダムとエヴァ像」について、第 11 回新約画像研究会、2011. 12. 23、立教大学

[図書] (計 2 件)

- ① 瀧口美香、創元社、ビザンティン四福音書写本挿絵の研究、2012、282
- ② 益田朋幸、中央公論新社、ビザンティン聖堂美術、2011、228

6. 研究組織

(1) 研究代表者

永澤 峻 (NAGASAWA TAKASHI)
和光大学表現学部総合文化学科・教授
研究者番号：20130859

(2) 研究分担者

益田朋幸 (MASUDA TOMOYUKI)
早稲田大学文学大学院・教授
研究者番号：70257236

児嶋由枝(KOJIMA YOSHIE)
上智大学文学部・准教授
研究者番号：70349017

小野迪孝(ONO MICHITAKA)
東海大学教養学部・教授
研究者番号：30169338

瀧口美香(TAKIGUCHI MIKA)
明治大学商学部・准教授
研究者番号 80409490